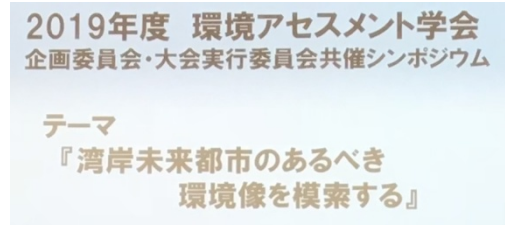


環境アセスメント学会

2019年度環境アセスメント学会が大阪市立大学術情報総合センター10階で開催され、7日午後のシンポジウムに参加した。いつも利用しているセンターなので、会場は慣れたものだ。ずいぶん前に、日本地方財政学会が行われた会場だった。環境アセスメント学会に初めて参加した。シンポジウムのテーマは「湾岸未来都市のあるべき環境像を模索する」。大阪湾の人工島・夢洲のアセスメントが話題になると思って参加したが、残念ながら、あまり期待したものではなかった。



学会資料集が手に入らなかったもので、ノートにメモしたことでシンポジウムを振り返ってみる。最初に大阪府立大の院生が将来の「夢」を語った。これがテーマにどう結びつくのか、もうひとつ理解できなかったが、次いで4人の研究者が報告した。いま話題のSDGs、東京五輪・パラリンピックのアセス、都市計画の視点から見る湾岸未来都市の土地利用、都市沿岸域の「数理モデル」という報告が続いた。

「数理モデル」の報告はあまり理解できなかったが、そのほかの報告は参考になることも多かった。SDGsの報告は、大阪万博についての疑問を深めた。万博協会のホームページには、写真のスライドが掲載されている。次にすすむと、大阪・関西万博の開催目的として、次のように書かれている。



万博は、地球規模のさまざまな課題に取り組むために、世界各地から英知を集める場所です。大阪・関西万博は、2015年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、持続可能な開発目標として17の目標を掲げたSDGsが達成された社会をめざす為に開催いたします。SDGs(持続可能な開発目標)達成の目標年である2030年まで残り5年となる2025年は、実現に向けた取り組みを加速するのに極めて重要な年です。

学会報告でも、SDGs実現に向けて万博への「期待」が述べられていた。経済界も含め、「何でもSDGs」という感じだが、とりわけ万博については違和感がある。会場の夢洲はSDGsの目標に反することが多いのではないかと。生物多様性等の環境や防災・安全、そしてIRという名のカジノなどだ。SDGsの目標を実現するためにも、夢洲からの会場変更を求めたい。発言をしようか迷っていた。もう一つ、IRアセスの大阪府市「代行」についても、学会の意見を聞いたかった。こちらは研究仲間が厳しく指摘してくれた。

(2019年9月9日)